

## 基本方針

### 小松天満宮の建造物や自然環境と調和する河川及び周辺景観の形成

**堤防**：堤防の構造は、施設としての安全性や、自然環境との調和性、経済性等の観点から、箱形ブロック積擁壁の整備が予定されており、本項では緑化のあり方を中心に検討を行う。

**連絡橋**：位置や構造などについては今後設計していくこととなるが、小松天満宮の施設などとの調和に配慮した色調等について、歴史施設や自然環境との調和を留意していく必要がある。

**植栽地**：搬路の整備や分水路護岸部など新たな植栽可能地などに対して、社叢林との調和を考慮して補植する。  
また、新たに整備される駐車場や平坦地部分の修景や有効利用を考慮する必要がある。



## 神社の橋梁事例（文化財としての橋梁）

橋梁は俗世と神域をつなぐ

日常の世界から神聖な世界への架け橋と行った意味がある

神聖な色である朱が使われる

本来は白木であったが、朱色には魔除けと行った意味があり、また高貴な禁色であったことから尊い施設として朱色が使われてきた



### 歴史文化施設との調和を目指した場合

#### 朱色の色彩

様々な歴史的神社建築物に付帯する橋梁の事例を参考として、神門の色彩と統一し、神社としてのイメージを強調することのできる朱色を使用することにより調和

#### 材質は経済的な材質

材質は橋梁の構造に合わせ、防護柵としての強度が確保でき、管理のしやすさを考慮した経済的な材質を使用



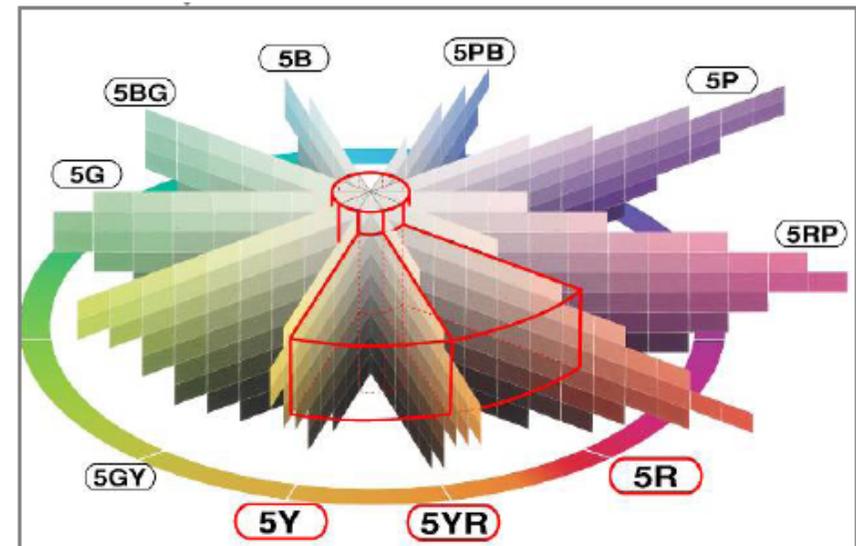
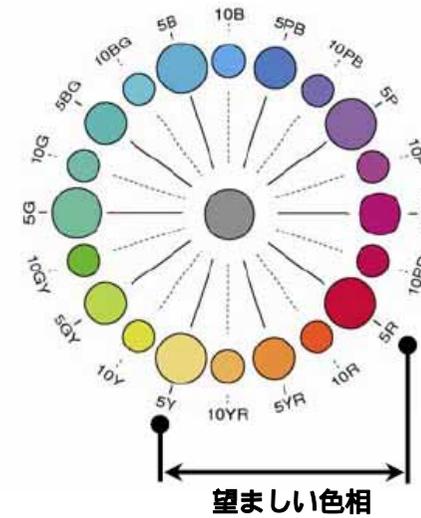
## 自然環境との調和を目指した場合

### 自然素材の採用

基本的に自然素材を使用し、素材本来の色彩を多用していくとともに、シンプルで自然な形態の意匠により自然と調和

### アースカラーの使用

色彩は暖色系の色を活用し、立ち上がっている部分の色調を少し明るくし圧迫感をなくして広がりのある景観を形成



赤で囲まれた部分が望ましい色

## 修景植栽の方向性

### 新規植栽地部分

防風機能をもった植栽として、工事に伴い発生した移植容易な影響木を使用する。

常緑広葉高木：ヤブツバキ など

落葉広葉高木：エノキ、ハンノキ など

常緑広葉中木：アオキ、ネズミモチ など

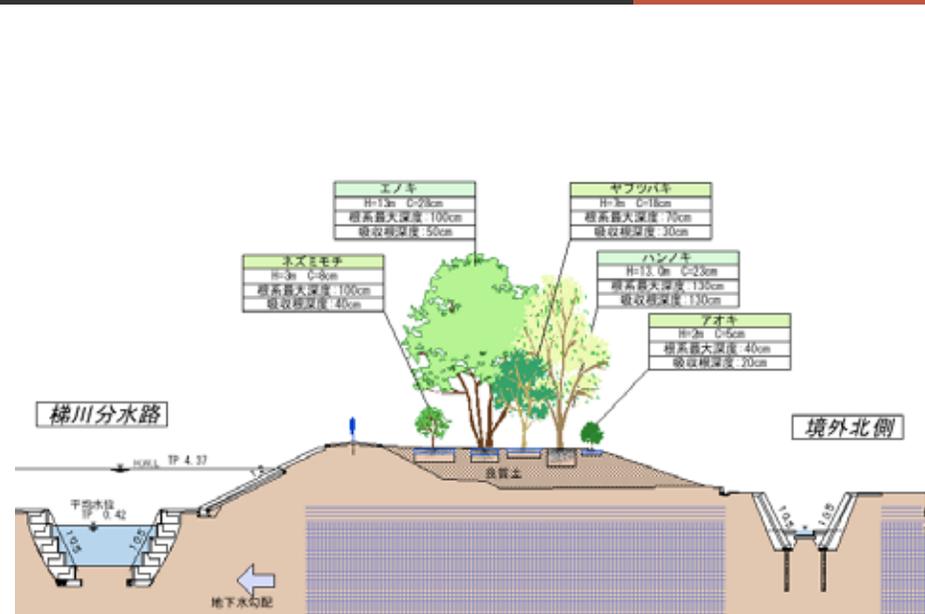
### 工事復旧植栽地部分

堤防工事に伴い、堤防及びその周辺部分に対し修景を行っていく。

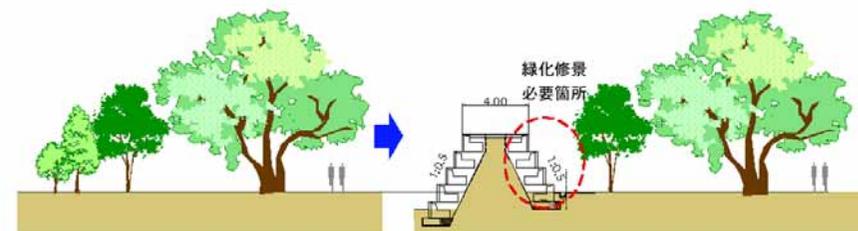
常緑広葉中木：ヒサカキ、サザンカ など

低木類：イヌツゲ、シャガ、リュウノヒゲ

ヤブランなど



新規植栽地部分



工事復旧植栽地部分

## 構造物修景の方向性

### 堤防部修景方策（箱形擁壁）

修景のあり方としては基本的に3つ考えられる。

- ・修景をしない
- ・低木の緑による修景
- ・花による修景

### レベル解消部修景方策

スペースがより小さく植栽による修景が可能な補強盛土などの工法により、レベルの解消を行う



箱型擁壁無修景事例



箱型擁壁低木修景事例



補強盛土事例



箱型擁壁草花修景事例